



NEWS

2008 No.212

11月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

第4回通常総会開催

今期のテーマは原点の継承と仕組みの革新 3年後に200社500億円体制を目標に 「お客様第一」を進化させます

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合は10月27日、東京・品川のホテルで通常総会を開催し、前期事業報告、今期事業計画を審議、承認しました。経済環境は予断を許しません、自動車リサイクル部品業界のリーダーとしての誇りを胸に「より良い商品を、より早く」最高のサービス提供に努めます。厳しい時代の中で整備工場の皆様に選ばれる組織づくりにまい進します。



総会は満場一致で事業報告、事業計画を承認。25周年「200社500億円」態勢に向けて一歩を踏み出した

NGP協同組合の第4回通常総会は、品川プリンスホテルで開かれました。大橋岳彦理事長体制での2年目となる今期、平成20年度(2008年9月～09年8月)の事業計画は、「原点は継承せよ。仕組みは革新せよ。そして品質は進化させよ。NGPと各社の継続のために」とのテーマを掲げました。これは、NGP協同組合の原点である「お客様第一」を今後も継承し発展させるために、常に仕組みを新たに、「最高の商品品質」と「最高のサービス品質」を提供し続けることの宣言を意味します。

今回の総会はNGPグループの発足から22回目となります。3年後の2011年には発足25周年の大きな節目を迎えます。このとき、さらにいっそうNGPブランドに磨きをかけ、お客様からの信頼を勝ち取ることで成長し、「200社500億円」の体制と

することをNGP協同組合は新たな目標に掲げました。

大橋理事長は総会冒頭のあいさつで、金属市況の大幅下落の問題に触れ、「10年前に金属市況が大きく下落したとき、我々はリサイクル部品にしっかり取り組むことを誓って、ともに成長してきた。今は大変な時期ではあるが、こ

れをチャンスととらえると、リサイクル部品の重要さが見えてくる。NGPとして全力でこの難局に立ち向かおう」と呼びかけました。NGPは環境激変に負けず、リサイクル部品業界のリーダーとして王道を歩み続け、25周年をひとつの通過点にさらに100年永続する組織であることを目指します。

景気は後退し、新車販売の回復がどうなるかなど、不安な要素を数多く抱えています。NGP協同組合は「お客様第一」の原点に立って、新たな事業にチャレンジします。3年後の売上500億円という目標に向かって、今期は前期実績の1割アップとなる売上400億円を目指します。その一環で新規組合員を増やし、組織の拡大を進めます。

在庫共有システムは昨年のバージョンアップで在庫部品の写真が添付できるように

なり、NGPダイレクトも使いやすくなりました。これに合わせて、現在、組合員各社では撮影環境を整え、写真付在庫を増やす作業に取り組んでいます。システムの改善ばかりではなく、教育活動ではフロント、生産部門の「STEP UP研修」を前期からスタートさせ、満足度の高い高質なサービスを提供できる態勢の構築を進めています。特に生産面では、より良い商品を提供するために、急速に進歩する自動車技術革新への対応も技術研修課題に加えています。

このほか、部品生産のベースとなる使用済自動車の仕入れのために、「くるマック事業」の充実に取り組みます。今後の競争激化の中で、エンドユーザーの取り込みは欠かせません。NGP協同組合が地球温暖化防止に積極的に取り組んでいることを啓蒙し、環境自動車整備に関心を持っていただくことでエンドユーザーと整備工場の皆様をつないでいく…、そうした仕組みづくりも新たな事業で検討しています。

総会後の懇親会には、斉藤鉄夫環境大臣も出席されました。大臣は技術をベースにした新しいリサイクルの形を作りたいと考えているそうで、そのために「現場の話」をNGPの皆さんに聞かせてもらいたいとのあいさつをいただきました。



懇親会には斉藤環境大臣も出席、盛り上がった

総会後の記者会見

部品拡大のチャンス到来、全組合一丸で拡大目指す

総会終了後、大橋岳彦理事長らNGP協同組合首脳は記者会見し、今期の取り組み課題などを明らかにしました。素材価格の下落によって競争激化が予測されるリサイクル部品販売で、これをチャンスとして捉え、さらに品質とサービスを高め、NGPブランドの向上に努める考えを強調しました。会見では以下のような質疑応答がありました。

Q：25周年「200組合員500億円」に向けて具体的な取り組みを聞きたい。

大橋理事長：MS50で3年前にもこの計画を掲げた。厳しい目標だと考えている。組合員の拡大はまずは空白県を埋めて、人口に対して手薄になっている都市部のメンバーも増やしたい。組合員1社1社が売上を伸ばすことと同時に組合員を拡大して、目標達成を目指す。一丸となって取り組んでいきたい。

Q：画像添付で部品販売は高まったか。

大橋理事長：画像添付は10月から始まったばかりで、効果が出るのはこれから。NGPダイ

レクトにも画像が添付されるので、提携先の一般整備工場さんからも需要が高まるだろうと期待している。

Q：CO₂に関する今後の展開は。

田中副理事長：現在、部品を売ることによるCO₂排出削減効果は月次で把握できている。今後、修理工場さんを巻き込んで納品書に購入部品ごとの排出削減量を記載するとか、月次のトータル削減量を請求書に記載して知らせることに取り組みたい。このためにデータベースを持つ早稲田大学が数値の整備をしているところで、早ければ来春から取り組める。



ピンチをチャンスに、前向き努力を強調した

Q：ガソリン高で走行距離が減少し、事故も減った。影響はあるか。

大橋理事長：事故や事故車が減って入庫が厳しい状況にあるのは確か。しかし、損保会社さんとの提携では4～9月の実績でコンスタントに月間1000台程度の入庫があり、落ちていない。さらに信頼関係を深めて、拡大したいと思っている。

総会で最優秀賞2組合員 品質優良8組合員を表彰 品質優良支部は2年連続で北海道支部が受賞



北海道支部その他、2年連続の表彰者も多い

NGP協同組合は第4回通常総会で、平成19年度の「NGP年間優秀賞」、「品質優良組合員」表彰を行ないました。

年間優秀賞は、部品売上金額・対前年伸長率、部品生産金額・対前年伸長率の4項

目でベスト20位以内に入った組合員に賞状と記念品を贈り、自動車リサイクル部品の生産・販売努力を称えるものです。北陸支部の津田鋼業、東北支部の青南商事が受賞しました。

また、品質優良組合員表彰はクレーム発生の少ない組合員・支部を対象にしています。組合員に対しては、出荷点数が全国平均であることをひとつの基準とし、クレーム発生の少ない組合員を表彰しました。これとは別に年間3万点以上を出荷し、かつ低クレーム率の組合員についても表彰しています。

今回は出荷点数全国平均以上部門では、クレーム率の少ない順に中四国支部のクレ

ストパーツ、北海道支部のピークル大東開発、中四国支部の山陰UP販売、北海道支部のまるふく八田商会、南関東支部のユアードアイ、北陸支部のメタルオート北陸が受賞。また年間3万点以上出荷部門は、中四国支部のエビス、北陸支部のハセ川自動車も受賞しました。クレストパーツ、まるふく八田商会、エビス、ハセ川自動車の4社は2年連続の受賞となりました。

支部表彰部門では北海道支部が、クレーム率を昨年実績より低減して二連覇を達成しました。組合員には賞状と記念品を、支部には賞状と金一封を送り、「NGPブランド」への貢献を称えました。



今年も「エコプロダクツ」に出展 リサイクル部品のCO₂削減効果をPRします

NGP協同組合は12月11日～13日、東京・有明の東京ビッグサイトで開かれる国内最大の環境展「エコプロダクツ2008」に単独出展します。自動車リサイクル部品を広く一般のユーザーに知ってもらうことを目的にエコプロダクツには06年に初出展以来、3年連続での出展となります。ブースは年々拡大、今回は9小間に広げ、来場者に自動車リサイクル部品のCO₂削減効果を力強くPRします。

このために配布するパンフレットを親しみやすく、リサイクル部品のCO₂

削減効果が分かりやすいものへと刷新しました。家庭の中にも浸透していくようにと、生活のなかで取り組めるCO₂排出抑制の取り組みなども紹介しています。「くるマック」「くるんぱ」の「くるマック」キャラクターを描いたエコバッグは、昨年もかわいいと来場者から好評でした。これらとともにパンフレットを手渡し、リサイクル部品のCO₂削減効果をアピールします。

前回同様、自動車リサイクルに関するクイズも実施します。会場は入場無料ですので、来場をお待ちしています。



年々関心が高まる「エコプロダクツ」、熱気の中でリサイクル部品をPR(写真は前回「エコプロダクツ2007」のNGP協同組合ブース)

NGP協同組合各委員長に聞く 最終回 中里明光自動車情報委員長

整備業界は大切なビジネスパートナー 共生するための仕組みを企画、提供します 支援のためのウェブサイト、計画は大詰め段階

自動車情報委員会は、NGP協同組合と整備業界との交流を深め、ビジネスパートナーとして結びつくための仕組みを構築するという重要な役割を担っています。現在、整備工場さんの支援サイトを立ち上げることを計画中です。「お客様第一」の基本に立ち返り、共生の関係を作り上げることは、NGP協同組合にとって重要な課題になっています。

—自動車情報委員会で取り組んでいることを教えてください

「エコボックスの取り組みを広げていこうと思っています。整備工場さんやディーラーさんから自動車の修理時に出た廃材を回収する仕組みです。NGP協同組合の中でも独自に取り組んでいる組合員もいますが、さらに一歩踏み込んで、整備工場さんやディーラーさんが、ユーザーから廃材の処分費用を徴収できる仕組みを考えました」

—どのようなものですか

「修理時の廃材は産業廃棄物として処理します。処理費用が発生しますが、これまでユ

ーザーに負担を求めることはしていなかったと思います。しかし、産業廃棄物の処理費用は上がっています。そこで今回、ゴミの処分費用がかかるのだということをユーザーに説明するためのツールを作りました。当社の整備部門で試行を始めましたが、リサイクルの重要性と廃棄物処理に費用がかかるという意識が浸透しており、ユーザーにきちんと説明をすれば理解してもらえます。エコボックスはNGP組合員が回収し、産廃処理を行うとともに、有価で引き取れるものは購入します」

—産業廃棄物の処理は資格が必要になります

「NGP組合員でも産廃資格を持つ事業者、持っていない事業者がいます。コンプライアンスは重要です。修理時の廃材は産廃ですので、資格を持っている組合員から取り組みを広げようと考えています。この取り組みに向けた勉強会なども立ち上げたいと考えています」

—このほか整備工場さん向けの支援ツールで考えていることは

「リサイクルパーツで修理を希望するお客さまを紹介するウェブサイトを立ち上げることを計画しています。個々の整備工場さんを紹介するページも作ります。新車・中古車販売、アフターマーケットともに市場環境は厳しさを増しています。整備工場さんとこれまで以上に距離を縮め、一体となって、リサイクル部品でメンテナンスをすることをユーザーに啓蒙していくことが重要であると考えます」



中里明光（なかさと・あきみつ）
1960年生まれ 牡牛座 AB型 趣味：ゴルフ、ギター、バイク

ご当地ナンバーに「富士山」登場

山梨・静岡両県にまたがる初ケース

11月4日から「富士山ナンバー」の交付が始まりました。ご当地ナンバーのひとつです。国土交通省は2004年、ナンバープレートの地域表示について、新規の自動車検査登録事務所の設置によらず独自の地域名をつけられるように制度を改めました。06年から「仙台」「つくば」「堺」「下関」など全国18ナンバーが交付されています。

富士山ナンバーもこの一つですが、交付地域が山梨運輸支局、静岡運輸支局沼津自動車検査登録事務所の二つの運輸支局にま

たがる初のケースです。対象地域は、山梨県が富士吉田市、富士川口湖町、西桂町、忍野村、山中湖村、鳴沢村、道志村の1市2町4村、静岡県が富士宮市、富士市（11月1日に富士川町を合併）、御殿場市、裾野市、小山町、芝川町の4市2町になります。

ちなみに1992年に神奈川県内で「湘南ナンバー」が登場しましたが、これは藤沢市、平塚市など県西部を管轄する自動車検査事務所を新設し、事務所名に「湘南」という地域の俗称を冠したことに由来します。

ご当地ナンバーの火付け役ですが、制度として富士山ナンバーなどとは異なります。



NGP 今月のCO2削減量

NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO2の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。

NGP 平成20年9月： **6,935,876kg**（全12団体計： **15,181,259kg**）
1月からの累計： **63,181,141kg**（全12団体計： **120,267,055kg**）

訃報

株式会社 カンザギ（滋賀県東近江市）の前代表取締役社長の永本清（ながもと・きよし）氏が10月3日にご逝去されました。享年75歳。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

第1回生産 STEP UP 研修会を開催

より良い商品を提供するために 部品生産を極める技術を伝授

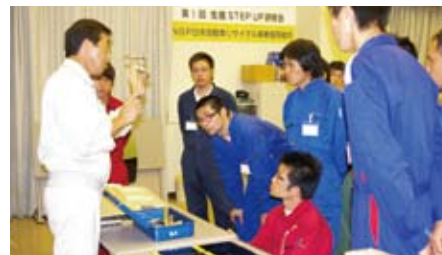
初の試みとなる「NGP生産STEP UP研修会」が10月15～17日の3日間、静岡県裾野市のあいおい保険自動車研究所東富士研修センターで開かれました。同研修会には10名が参加、外板パネル部品生産に不可欠な板金の基本知識やエンジン、ミッションなどの機能部品に関する構造知識を学びました。研修の目的は、フロントマンSTEP UP研修会と



実際のエンジンを分解し、現物主義で知識を習得。効果も高い

同様、日常業務に役立つ実践的な知識を学び部品生産のスキルアップを図ることです。生産する部品の付加価値を高め、より良い商品をお客様に提供するために必要不可欠な知識を磨く内容になっています。

例えば外板パネル部品では、あいおい保険自動車研究所が提供している「板金見積もり」の研修をベースとし、部品生産に必要な基本知識を集中して学ぶプログラムになっています。自動車車体構造の基礎知識では事故時のダメージについても学びますし、板金修理の知識では実際に補修したパネルを使って、補修の不具合などの補修痕を検証します。フロント業務にも必要となる知識かもしれま



板金基礎知識とともに解説用のパネルで補修塗装の不具合を検証

せん。また構造部品に関しても同様に現物主義で、実際にエンジンを分解しながらその構造と不具合について学びます。AT、MTのミッション、ブレーキ、サスペンションについても実物を前により具体的に知識を深めることができるプログラムとなっています。講義後は宿題が出され、集中して部品生産技術を磨く2泊3日です。普段の現場では接することができない知識を得ることができるため、受講生からも好評でした。

「3 R月間」に合わせて自動車リサイクルの啓蒙活動



自動車リサイクル法とリサイクル部品の浸透に本部職員もひと役買った

10月10日、東京・品川駅高輪口で自動車リサイクル法の啓蒙と自動車リサイクル部品の利用促進を呼びかけるパンフレットの配布を行いました。国が定めた10月の「3R推進月間」に合わせて、日本ELVリサイクル機構などとともに、リサイクル部品市場の拡大のために業界を挙げて取り組んでいる活動で、今年で3回目になります。NGP協同組合も単独で、この統一活動に呼応し

た啓蒙活動に取り組んできました。当日は、宮地康弘専務理事以下14人の本部職員が10時から配布を実施。大橋岳彦理事長も駆けつけ、用意した1000枚のパンフレットを「くるマック」のポケットティッシュとともに手渡し、自動車リサイクル法とリサイクル部品の活用をエンドユーザーに呼びかけました。

特別企画 プレゼント 第4回「ベース車を当てようクイズ」

このスポーツカーのベース車は何でしょう？

正解者の中から抽選でQUOカードをプレゼント。お年玉企画で1万円分を1名様、5千円分を3名様に！



ヒント 1. ヘッドライトは 2. 某社の 3. 今は「8」に
変えています フラグシップです 変わっています

ベース車が分かった方は、下記の応募用紙に回答と必要事項を記入して、FAXで「ベース車を当てようクイズ」係までお送りください。応募の締め切りは2008年12月25日当日着分までとさせていただきます。正解と当選の発表はNGPニュース2009年1月号で。

協力：日本自動車大学の皆さん

■下記の応募用紙に回答と必要事項を記入しFAXをお送りください。FAX番号はお間違えないようお願いいたします。

「ベース車を当てようクイズ」係		応募用FAX番号 03-5475-1209		回答	
お名前	職業	年齢	性別	男 ・ 女	
ご住所		電話番号	()	-	
特集で取り上げてもらいたいテーマ					

※ご記入いただいた内容は賞品の抽選・通知・発送のほか、今後の本サービスの参考とするためにのみ使用させていただきます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

(株)NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201